

報道発表資料

モーニングスター・サステナリティクス、 低炭素移行レーティング（Low Carbon Transition Ratings）を提供開始

低炭素社会への移行に対する企業の取り組み状況を評価し、
投資家の規制対応および重大な気候関連リスクの管理を支援

2023年4月13日、トロント発

環境・社会・ガバナンス（ESG）の調査、レーティング、データで業界を代表する**モーニングスター・サステナリティクス**は本日、低炭素移行レーティングの提供を開始しました。本レーティングは、気温上昇を1.5度に抑える「ネット・ゼロ」の実現に向けて、企業が現時点でどのような取り組みを行っているか、科学的根拠に基づいた評価を投資家に提供することを目的としており、ネット・ゼロの公約達成についての企業の戦略と行動を総合的に評価し、投資家に企業の方針、ガバナンス、投資計画について明確かつ比較可能な見解を提供するものです。モーニングスター・サステナリティクスでは、現時点で約4,000社の大手上市企業を対象に低炭素移行レーティングを提供しており、2024年までに対象企業を12,500社以上に拡大する予定です。これにより、投資家は移行リスクの特定と管理、グローバルな規制要件や情報開示への対応、気候変動に関連する投資戦略の構築、エンゲージメント活動の推進に役立つ情報を得ることが可能となります。

モーニングスター・サステナリティクスの低炭素移行レーティングに関する調査結果

投資家は、ネットゼロ目標に対して意欲的な戦略を掲げ、投資先企業が直面する気候関連のリスクと機会について、より詳細な知見を深める取り組みを推進しています。世界的な気候変動問題の目標を達成するために、ネット・ゼロの公約を掲げる企業が増えている一方で、サステナリティクス社が実施した初期調査では、高い排出量削減目標を持つ企業はわずか25%にとどまっています。さらに、サステナリティクス社の分析では、高い温室効果ガス（GHG）パフォーマンス・インセンティブ計画を持つ企業はわずか8%で、この分野では公益セクターと不動産セクターがリードしています。これらの企業が現時点でどの程度GHG排出量の削減を管理しているかサステナリティクス社が評価したところ、世界は2.9度温暖化するとの予想となり、パリ協定の目標である1.5度を大きく上回るものとなりました。

低炭素移行レーティングの特徴

モーニングスター・サステナリティクスの低炭素移行レーティングは、気候変動の専門家と受賞歴のあるESGリスク・レーティングの開発者からなる社内チームによって、投資家からのフィードバックに基き約2年間かけて開発されました。低炭素移行レーティングの最終スコアは、産業革命前からの気温上昇の推定値として表されますが、ここでは企業のビジネスモデル、排出量、マネジメント評価に基づき企業が直面する移行リスクと機会へのエクスポージャーを、投資家自身が様々な側面から把握するためのシグナルをご提供します。また、この新たな格付けは、PRIから委託を受けたイニシアチブ「**避けられない政策対応（IPR）**」のシナリオ分析と、85以上のマネジメントインディケーター調査に基づき、スコア毎に評価をご提供します。併せてご提供するTCFDモジュールでは、企業の気候変動リスク開示の範囲と質を判断することができます。

モーニングスター・サステナビリティクスの気候ソリューション担当シニア・バイスプレジデントであるアザデ・サブールは、次のように述べています。

「気候変動の影響がさらに顕在化するにつれ、企業は世界経済の脱炭素化に伴う移行コストの上昇に直面することになるでしょう。投資家はこのようなリスクをより強く認識するようになり、企業が低炭素社会への移行に必要なビジネスモデルの転換を実現する準備ができているかどうかを判断するために、企業の移行計画を読み解く構造的な方法を必要としています。当社の低炭素移行レーティングの一貫したフレームワークを活用することで、投資家は、企業の移行計画の最も重要な側面と、業種や地域間の比較を理解するための明確なシグナルから恩恵をうけることができます。」

PRI から委託を受けたイニシアチブ IPR の 1.5 度シナリオを活用したメソドロジー

投資家のお客様においては、評価モデルの前提条件や企業のバリューチェーンにおける各種評価指標など、モーニングスター・サステナビリティクスの包括的かつ透明性の高いメソドロジーをご覧いただくことができます。本メソドロジーで用いている IPR の政策要求シナリオ（1.5 度シナリオ）では、現時点で表明されている政策を超えて、地球温暖化を 1.5 度以下に抑えるために必要な意欲的な政策とアクションを示しています。この政策要求シナリオは、国際エネルギー協会のネット・ゼロ・シナリオに基づいており、幅広いセクターを網羅し、技術の進歩や土地利用の変化などを想定しています。モーニングスター・サステナビリティクスでは、1.5 度の政策要求シナリオを、企業の事業所や事業活動のある場所を考慮した企業固有のネット・ゼロ目標におけるカーボンバジェットに落とし込み調整しています。

IPR の投資家対応責任者であるジュリアン・ポールターは、次のように述べています。

「企業にとっての移行関連リスクは、技術の変遷によるコストの増加、政策の変更による財務リスク、資本へのアクセスの減少につながります。これらのリスクを理解することがより必要となる中、投資家はポートフォリオへの影響を判断するために、科学的根拠に基づく評価を必要としています。IPR は、モーニングスター・サステナビリティクスが、低炭素移行レーティングに IPR のシナリオ分析を採用したことを喜ばしく思っています。投資家がこのような新しいシグナルを活用し、より多くの情報に基づき投資判断を行うことができるように、我々はより緊密に協力していきたいと思えます。」

モーニングスター・インデックスによる新たな気候関連のグローバル指数のシリーズの導入

今年の後半には、モーニングスター・インデックスはモーニングスター・サステナビリティクスの低炭素移行レーティングに基づく新たな気候関連のグローバル指数のシリーズの算出開始を予定しています。この指数はネット・ゼロを目指す投資家向けに設計され、ビジネスモデルの変革や気候変動リスクの管理に取り組んでいる企業へのエクスポージャーを提供します。モーニングスターの株式指数、債券指数、マルチアセット指数のサステナブル投資における指数を通じたソリューションの詳細については [こちら](#) をご覧ください。

また、モーニングスター・サステナビリティクスの新たな旗艦プロダクト、サービスとなる低炭素移行レーティングと一連の気候変動ソリューションの詳細については、[こちら](#) をご覧ください。

モーニングスター・サステイナリティクスについて

モーニングスター・サステイナリティクスは、ESG データ、調査、レーティングで業界を代表する企業として、世界中の投資家の責任投資戦略の策定と実行をサポートしています。30 年以上にわたり、世界の投資家の変わりゆくニーズに応えるため、高品質かつ革新的なソリューションの開発により業界の先駆者であり続けています。現在、モーニングスター・サステイナリティクスは、ESG 情報や評価を投資プロセスに組み込んでいる世界有数の資産運用会社や年金基金向けにサービスを提供しており、また数百の企業や金融仲介者と連携し、政策、実務、資本プロジェクトにおいてサステナビリティを考慮できるよう支援しています。モーニングスター・サステイナリティクスは、世界 17 カ所にオフィスを構え、1,800 人以上のスタッフを擁し、そのうち 850 人以上のアナリストが 40 以上の業種グループにおいて様々な専門知識を持つ専門家です。詳細については、www.sustainalytics.com をご覧ください。

モーニングスター・サステイナリティクスは、様々なレーティング、評価、指標を作成していますが、これには将来の事象に関する仮定が含まれており、これらの事象は発生する可能性もあれば発生しない可能性もあり、また仮定と大きく異なる可能性もあります。これらのレーティング、評価、指標は意見を述べたものであり、今後変更される可能性があり、いかなる将来を保証するものではなく、また、投資判断の唯一の根拠として使用されるべきものではありません。モーニングスター・サステイナリティクスは、投資助言やその他の（金融）助言を提供するものではなく、本プレスリリース内のいかなるものも、そのような助言に該当するものではありません。

メディアのお問い合わせ先：

Lee Reisch
lee.reisch@morningstar.com
P) +1 647 264 3775

Ruqayyah Mohammed
Ruqayyah.mohammed@morningstar.com
P) +1 647 646 6487